

昭和五十五年衆議院議員選挙における政見（予定）

（昭和五十五年六月）

香川県第二区の皆さま、大平正芳であります。

昨年の秋の総選挙には、私は皆さまの圧倒的なご支援を得て、見事第十一回目の当選をかざることができました。そして、第二次大平内閣を組織して、引き続き国政に責任をもつことになりました。これひとえに皆さまのご支援の賜ものであり、ここに心から厚くお礼を申し上げます。

私は旧臘、中国を訪問し、またこのたび、華国鋒総理を迎えて、八〇年代に向けて日中兩國のゆるぎない絆をかためることができました。

今年の正月には、豪州、ニュージールランド、パプアニューギニアの三国を訪問し、太平洋をめぐる地域の平和と安定、さらには、これら三国との経済的な相互補完関係の発展に努めてまいりました。

さらに五月には、米国、メキシコ、カナダおよび西ドイツを訪問し、これら諸国の首脳との間で、当面する国際上の諸問題の処理につき、隔意ない協議をとげ、相互の信頼をたしかめ合うことができました。

内政面においては、まず、昭和五十五年度の予算案を編成し、その成立をはかりました。この予算案は、増税を伴つことなく、一兆円の国債の発行額を減らすことに成功いたしました。

たまたま、昨年以來、大幅な石油価格の高騰と円安傾向が同時に進行し、経済は容易ならぬ局面を迎えました。私は、石油をはじめ必要な資源の確保をはかる一方、省資源、生産性の向上、必需物資の需給の安定に努めてまいりました。幸い物価は諸外国に比べて安定した動きを示し、生産と輸出は順調に伸び、消費と投資も堅調に推移され、雇用も改善され、わが国は第二の石油危機を突破することができました。

それから、いよいよ八〇年代に向けて、エネルギー問題、急速な高年齢化に伴う福祉問題、中央・地方を通ずる財政の再建問題等に本格的に取り組んでおりました。その矢先、野党は軽率にも内閣不信任案を提出し、与党内の一部に結束の乱れもあって、この不信任案は大方の予想に反して成立いたしました。

私は、この不信任の理由と不信任案成立の経緯が納得できませんので、政治の原点に還つて国会を解散し、信を国民に問うことにいたしました。皆さまのご理解をお願いする次第であります。

八〇年代の今後を考えると、内外の諸情勢は一層厳しさを加えるものと予想されます。そこで、私はこの選挙を通じて、われわれが実行しなければならない三つの政策と一つの誓いを申し上げ、皆さまのご理解を得たいと考えます。

その第一は、厳しい国際情勢の中にあつて、国の安全を守ることであります。われわれは、軍事大国への道をさけながら、政治、経済、外交、防衛等の諸力を総合的に活用し、自らの安全を確保するとともに、世界の平和の維持に応分の貢献をしなければなりません。

第二は、国民生活の防衛であります。とりわけ物価問題は、国民の最大の関心事であります。私は、市

場機能を活かし、物資需給の安定と生産性の向上を図りつつ、物価の安定に全力をつくす決意であります。

その第三は、未来への保障であります。われわれの未来を脅かすものは、エネルギー、資源・食料、環境などの制約の壁であります。同時に、高年齢化社会の進行に伴い、生きがいのある第二の人生に備えるところがなければなりません。そのため、科学技術を振興し、教育を充実し、社会保障を整備するとともに、自然と文化、歴史と伝統を重んずる環境を整えなければなりません。

同時に、農業、漁業、中小企業の振興を図りつつ、省資源化に努めなければなりません。

私は、これらの三つの政策を実行するとともに、政治の倫理と行政の綱紀を正し、行政のムダを戒め、国民に奉仕する政治を確立することを、皆さまにお誓いするものであります。

香川県第二区の皆さま。引き続きご理解あるご支援を与えて下さるようお願いいたします。